

者は個々ばらばらな知識が「宇宙とは何か?」という究極の目標に向かって統一されてゆく過程をはっきりと把握することが出来る。

次に説明のおかしな個所を少こしあげてみる。マゼランの航海は地球の丸いことを証明したが、地球の実際の大きさについては何も教えてくれない(8頁)。ヒッパルコスには月は地球半径の59倍遠くにあることを示したので、38万 km 離れていると言ったのではない(11頁)。彼が作ったのは星団でなく、1,080個の星のカタログである(20頁)。ヘンダーソンは暗い星に対する相対視差でなく、 α Cenの天頂距離を測ったのである(24頁)。太陽内部の核反応は重水素を使う水素爆弾と同じではない(61頁)。星間ガスは連星の軌道運動には与らないが、私達に近づくかまたは遠ざかる運動をしている(73頁)。冥王星は直径がはっきりしないから、シリウス伴星と比較するには適当でない(80頁)。1901年のペルセウス座新星はその後爆発していない(83頁)。M33はM31の伴星雲ではない(97頁)。ヘルツスプルング(39頁)は

デンマーク人、ド・ジッター(95頁)はオランダ人である。12頁の楕円の図は、焦点の位置がよくない。

文章は非常に滑らかで、翻訳であることを感じさせない。このように、文科系の人が訳し、それを専門家が校閲するという方式は最も理想的な翻訳形態と思われる。ただし用語は統一してほしい。例えば、ケフェイドとセファイド、ヒッパルカスとヒッパルコスなど、マゼラン星雲はふつうマゼラン雲(Magellanic cloud)と言っている。ヘクテイウス(2頁)はヘカタイオス、ヒンド(47頁)はハインド、ストウルベ(24頁)はストルーベが正しいだろう。クラーク(78頁)は光学者(optician)より望遠鏡製作者と言った方がよい。索引はあまりよくない。人名を探すには、そのフル・ネームを知っていなければならない。例えばジョージ・エドワード(これもジョルジュ・エドアルドと思うが)、ルメートルはラ行でなく、サ行に入っている。索引の作成にも念を入れていただきたい。(佐藤明達)

学会だより

東京天文台公開の報告

天文学会後援の東京天文台公開は去る10月2日(土)の午後2時から8時まで行なわれました。あいにくの曇天のために、見学者は1,700人ほどと少なく、また多くの見学者が期待している天体観望も雲にかくされた月が対象ではどうすることもできない次第でした。

今年度の会費納入について

今年度会費未納の方に、会計係より会費納入用の振替用紙を同封いたしました。納入方よろしくお願ひ申し上げます。ただし1ヶ月前に同封いたしましたので、その後納入済の方は失礼御容赦下さい。

×

×

×

×

×

雑報

水路部創設100周年記念式典

本文記事にある水路部創設100周年の記念式典は、さる昭和46年9月11日、東京都千代田区馬場先門東商ホールで皇太子殿下御夫妻をお迎えして、国際水路機関代表・関係学会・研究機関・海運業界・旧現職員等が参列、盛大に行なわれました。

なお、月報アルバム「水路部創設のころ」の参考に、天文月報62巻11号の月報アルバムを御参照下さい。観象台赤道儀ドームの写真が掲げてあります。

科学衛星の打上げ

我が国初の科学衛星MS-F2の打上げに成功、「しんせい」と名付けられた。表紙写真にあるように、衛星は重量が約70kgで、大きさは直径が約75cm、短波帯太陽電波、宇宙線、電離プラズマの観測器をつんでいる。